

反省と展望



カトリック太田教会
サベリオ 金 大烈 神父

太田教会の担当司祭として務め始めたのは4年前のことです。本当に速かったと思います。振り返ってみますと、様々な思いが鮮やかに思い浮んで来ます。この誌面を通してお話させて頂きたいのは、今までこの共同体が4年間歩んできた道を整え、またこれからの道について、新たな気持ちで考えてみる事です。

これまでの4年間、3つの司牧の方針に信者の皆様は懸命にご協力して下さいました。司牧方針の3つとは、祈る共同体、分かち合う共同体、述べ伝える共同体でした。言葉としては簡単で、信者なら誰でも分っている基本的なことかも知れませんが、実は一番難しく、大事な事です。もし、この3つを軽んじてしまうと、教会が存在する理由を失ってしまう事にもなりかねません。それでは、今まで私たちがやってきた事を要約してみましょう。

1 .祈る共同体

— 秘跡に忠実に与る事、そのために信仰・典礼の教育に力を注ぎました。毎日のミサと説教を行い、多様な祈りの集い、基本的な神学教室を開き、定期的な黙想会、聖体顕示、侍者の養成と教育(大人、子ども)、典礼奉仕者の養成と教育、定期的な病者の訪問、聖歌隊の結成、子どもの教育の為に取り組んできました。

— 祈れる雰囲気造成：聖堂内の環境作り、教会の敷地内の環境を美的に、また実用的に整理しました。

— 言語別の司牧的な配慮：6つの言語圏の信者が、少なくとも毎月1回、母国語で主日のミサに与るように配慮しました。原則として普段は国籍を構わず、小教区の一人として日本語のミサに与るように奨めてきました。その為には小教区の意識が必要でした。

2 .分かち合う共同体

— 司祭の家庭訪問と面談により、家族の実態を把握しようとしてきました。

— 多国籍、多文化の違いを超えて、一つの信仰共同体として、福音的な交わりと分かち合いが出来るような共同体を目指してきました。

— 言語の問題を出来るだけ乗り越える為に、日本語学校を開いて運営しています。

— 地区の集まりと活動の活性化：各地区が一つの小さな

共同体として、自発的に動き出せるように奨励してきました。

— 信者全体が参与する福祉活動を、福祉部会が中心になって幅広く展開しようとしてきました。

— 各部会と年代別の活動の活性化、そして信心団体の活性化を奨励してきました。

そして、これらは国籍に関係なく行う事を、原則として決めました。

3 .述べ伝える共同体

— 宣教の必要性の意識から始め、各信者が宣教師の使命感を持つように奨励してきました。その対象はまず家族から、教会を離れている信者、そして隣人等...限られていません。

— 各国の単位でも、自分の国の人々の為に積極的な宣教の活動を強調してきました。

— 信者現況に対するもっと正確な把握の作業は、現在進行中です。

以上が、私たちが頑張って取り組んできた大体的内容です。結果や評価は満足とは言えませんが、結構変化もあったし、成果も実られたと感じています。やり直すところもあるし、また褒める事と共に、励ますところもあります。

これから先、より大事な事として私が考えている構想を簡単に紹介させて頂きますと、これまでの3つの司牧方針の基調は変わりません。不足な部分は補充しながら、皆様のご意見に耳を傾けて、なるべく皆様の積極的な参与を求めて参ります。子どもの信仰教育、その親の教育、子どもの相談室、宣教の為に研究チーム結成、次世代の働き手の為に年代別の結束、飢餓に襲われている子ども達の支援活動等、私たちが力を合わせ、なすべき事だと思います。

私もなるべく疎外される兄弟姉妹がいないよう多方面に配慮しながら、司牧者としての役割に忠実になろうと頑張らせて頂きます。

当然、躓かせる事が起こるかも知りません。しかし、私たちは、神様のみ旨に適う福音的な共同体を築こうとする心を持っている限り、恐れる事は何も無いと信じます。

最後に、不足な私を信頼して下さいました皆様に感謝致します。

2010年 12月